



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

Artistic Director: Akiko Suwanai

国際音楽祭 NIPPON 2024

芸術監督: 諏訪内晶子



©TAKAKI KUMADA



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

人のいるところには
夢がある。



JAPAN ARTS

シューマン室内楽マラソンコンサート
2月23日(金・祝) 東京オペラシティ コンサートホール



International Music Festival NIPPON 2024



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

皆様と「国際音楽祭NIPPON 2024」で再びお目にかかれますことを、大変嬉しく思っております。音楽祭がスタートしてから早10年が経ちました。約3年間続いたコロナ禍でも、開催をする事が可能であったいくつかの演奏会では、日本の優れた若い演奏家達、またその演奏に共感して下さる聴衆の皆様との出会いがあり、新たな喜びを感じております。

この度も、国内外から多彩な素晴らしい音楽家にお集まりいただきます。オーケストラ公演では、ジュリアード音楽院で共にヴァイオリンを学び、その後指揮者となった、ウィーン出身のサッシャ・ゲツツェル氏を指揮者に迎え、音楽祭のために特別に編成された『フェスティバル・オーケストラ』との公演が実現します。また、前回のブラームス室内楽マラソンに続き今回はシューマン室内楽マラソン、1800年と1900年のウィーンを中心にプログラムを組んだ室内楽プロジェクト、ミュージアム・コンサートでは、安良岡章夫氏の委嘱作品初演があります。

10年の時間を重ね、かつてマスタークラスを受講された方々が、再び演奏家としてこの音楽祭に参加して下さることも、この音楽祭の特徴の一つとなりつつあります。

この度も変わらずご支援をいただいております企業の皆様、関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2024
芸術監督
諏訪内 晶子

I am very happy to see everyone once again at the International Music Festival NIPPON 2024.

It has been ten years since our music festival began. Even during the three-year Covid-19 pandemic period, the relatively small number of concerts we were able to present gave us opportunities to encounter outstanding young musicians from Japan, as well as audiences who were in sympathy with and inspired by their performances, and to experience renewed joy.

In 2024, wonderful and diverse musicians from Japan and around the world will gather at the festival once again. We are pleased to present orchestra concerts in which the Viennese maestro Sascha Goetzl—with whom I studied violin at the Juilliard School and who subsequently became a conductor—will lead the Festival Orchestra, an ensemble brought together especially for this music festival. Also featured are a Schumann chamber music marathon following the previous edition's Brahms chamber music marathon and, in the chamber music project and the Museum Concert which will focus on 19th and 20th century Vienna, the premiere of a commissioned work by Akio Yasuraoka.

With our ten-year history, a special feature of this music festival is that those who previously participated as master class students are returning to participate in the festival as musicians.

I would like to express my sincere thanks once again to the corporations that have provided continued support, and to everyone who has helped make the festival possible.

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2024

シューマン 室内楽マラソンコンサート

R. Schumann Chamber Music Marathon Concert

2月23日(金・祝) 東京 東京オペラシティ コンサートホール
February 23 Fri. Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

[第1部] 11:00開演

ピアノ三重奏曲 第1番 ニ短調 Op.63 (柴トリオ)
Piano Trio No.1 in D minor, Op.63

ピアノ三重奏曲 第2番 ヘ長調 Op.80 (辻/佐藤/阪田)
Piano Trio No.2 in F major, Op.80

ピアノ三重奏曲 第3番 ト短調 Op.110 (シュミット/マインツ/福岡)
Piano Trio No.3 in G minor, Op.110

[第2部] 14:00開演

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ短調 Op.105 (中野/秋元)
Violin Sonata No.1 in A minor, Op.105

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 ニ短調 Op.121 (シュミット/福岡)
Violin Sonata No.2 in D minor, Op.121

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 イ短調 WoO 2 (辻/阪田)
Violin Sonata No.3 in A minor, WoO 2

[第3部] 16:00開演

弦楽四重奏曲 第1番 イ短調 Op.41-1 (米元/小川/鈴木/伊東)
String Quartet No.1 in A minor, Op.41-1

弦楽四重奏曲 第2番 ヘ長調 Op.41-2 (中野/米元/佐々木/佐藤)
String Quartet No.2 in F major, Op.41-2

弦楽四重奏曲 第3番 イ長調 Op.41-3 (カルテット・アマール)
String Quartet No.3 in A major, Op.41-3

[第4部] 19:00開演

幻想小曲集 イ短調 Op.88 (柴トリオ)
Fantasiestücke, in A minor, Op.88

ピアノ四重奏曲 変ホ長調 Op.47 (シュミット/鈴木/マインツ/阪田)
Piano Quartet in E-flat major, Op.47

ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44 (諏訪内/米元/佐々木/マインツ/ガヤルド)
Piano Quintet in E-flat major, Op.44

■出演者

諏訪内晶子 (ヴァイオリン)
Akiko Suwanai, Violin

ベンジャミン・シュミット (ヴァイオリン)
Benjamin Schmid, Violin

辻彩奈 (ヴァイオリン)
Ayana Tsuji, Violin

中野りな (ヴァイオリン)
Lina Nakano, Violin

米元響子 (ヴァイオリン)
Kyoko Yonemoto, Violin

佐々木亮 (ヴィオラ)
Ryo Sasaki, Viola

鈴木康浩 (ヴィオラ)
Yasuhiro Suzuki, Viola

イエンス=ペーター・マインツ (チェロ)
Jens-Peter Maintz, Cello

佐藤晴真 (チェロ)
Haruma Sato, Cello

ホセ・ガヤルド (ピアノ)
José Gallardo, Piano

阪田知樹 (ピアノ)
Tomoki Sakata, Piano

福岡洸太郎 (ピアノ)
Kotaro Fukuma, Piano

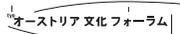
柴トリオ < 秋元孝介 (ピアノ)・小川響子 (ヴァイオリン)・伊東裕 (チェロ) >
Aoi Trio [Kosuke Akimoto, Piano / Kyoko Ogawa, Violin / Yu Ito, Cello]

カルテット・アマール < 篠原悠那 (ヴァイオリン)・北田千尋 (ヴァイオリン)・中恵葉 (ヴィオラ)・笹沼樹 (チェロ) >
Quartet Amabile [Yuna Shinohara, Violin / Chihiro Kitada, Violin / Meguna Naka, Viola / Tatsuki Sasanuma, Cello]



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

主催: ジャパン・アーツ / 日本経済新聞社

後援: ドイツ連邦共和国大使館  / オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム  オーストリア文化フォーラム

協力: ユニバーサル ミュージック / **KAWAI**

特別協賛:  豊田自動織機 **TOYOTA**  豊田通商 **AISIN**

船木 篤也(音楽評論) Atsuya Funaki

ローベルト・シューマン(1810-1856)の時代、すなわち19世紀の前半。室内楽は、作曲家が「本気で」取り組むべきジャンルとなっていた。もはや王侯貴族の館やアマチュア家庭でのみ奏でられる娯楽作品ではない。公衆が集まるコンサートで、書き手の能力がシビアに問われるのだ。その意味で、交響曲と同様のステイタスを有していただろう。

シューマンが、ライブツィヒにてピアニスト、クララ・ヴィークと結婚したのち、1841年に交響曲を、翌1842年に室内楽曲を集中的に書いたのも、そうした背景から理解できる。それまでに公表したのは、もっぱらピアノ曲と歌曲だった。いまや私人としても公人としても「社会的承認」を得ねば、というわけだ。

ただし、シューマンは室内楽曲を、以後ドレスデン時代とデュッセルドルフ時代にも書き継いでいる。ライン川に身投げを図る前年、創作晩期にあたる1853年まで——。本日はそれら全作品の中から、伝統的な重奏形式によった作品を集めて聴く。

■第1部■

ピアノ三重奏曲 第1番 ニ短調 Op.63

活力と情熱をもって／生き生きと、しかし速すぎず／ゆっくりと、心からの感情をもって／熱気をもって

シューマンの「室内楽の年」1842年に、ピアノ三重奏曲はないようにみえるが、本日終盤で聴く「幻想小曲集」はピアノ＋ヴァイオリン＋チェロの編成をとっており、これが同年に書き起こされている。しかるに「ピアノ三重奏曲」と呼ぶのを、彼はためらった。理由は第4部で述べよう。いずれにしても、この伝統的な楽曲形態に、非常に心して臨んだのは間違いない。

堂々「第1番」と銘打たれたこちらOp.63は、1847年、ドレスデン時代の作。シューマンは後年、当時の「暗い気分」を述懐しているが、ここには熱いパッションと独創性がある。第1楽章の展開部では、突如、へ長調で異次元の世界が現出。弦楽器は駒の近くを弾き、何ごとが起きたのかと思うほど夢幻的な響きをする。スケルツォ楽章、緩徐楽章と続き、第4楽章の中盤で初めて*f*が現れる。各楽章の発想標語がドイツ語で記されており、シューマンとしても、室内楽曲でそうするのは初の試みだった。

ピアノ三重奏曲 第2番 へ長調 Op.80

きわめて生き生きと／心のこもった表情で／ほどよい動きで／急くことなく

シューマンの音楽ではよく、ある共通した音の「面影」や「身ぶり」が、楽章間を、あるいは作品間をまたいで、うかがえることがある。そうして得もいわれぬ詩情が立ちのぼるのだが、第1番と対照的ながらほぼ並行して書かれた、このピアノ三重奏曲第2番でいえば、「下行する音の身ぶり」がそれにあたるだろう。

第1楽章。展開部で初めて現れる、「ソ・ファ・ミ・レド#」と下行するヴァイオリンの印象的なメロディがある。以後ほかの楽器でも敷衍されるこの旋律は、シューマン自身の歌曲集「リーダークライス」Op.39の第2曲にそっくり。そして、これと似た面影が、続く緩徐な第2楽章の冒頭にも、また小雨の日のワルツとでも呼びたい第3楽章の冒頭にも、認められるだろう。元となった歌曲の詩は、「あなたの姿が、幸ゆたかに／私の心の底にある」(アイヒェンドルフ)というもの。これが気に入ったのか、クララは本作を「何度でも弾きたい」と言った。

ピアノ三重奏曲 第3番 ト短調 Op.110

動きをもって、ただし急くことなく／きわめて遅く／すばやく／力強く、フモアをもって

シューマンが「市の音楽監督」に就くべく、一家を連れてドレスデンからデュッセルドルフに移り、約1年経った頃、1851年の10月に1週間ほどで書かれた。

重要なのは、やはり第1楽章・主要主題の「身ぶり」だろう。寄せ返す波のように、ぐいと上行し、さっと下行する。いかに

もシューマンらしく開始後25小節も経ってから主調(ト短調)の終止形が実現し、そのあとに次の主題が平行調(変ロ長調)で現れるのだが、ここでは先の身ぶりが、上行6度をふくむ運動に、いわば翻訳されている。

上行6度は、このあと第2楽章と第4楽章の主要主題にも織り込まれてゆく。クララが「最も荒々しい深みにまで人を連れ去る」と称した第3楽章も、同様の身ぶりで開始。その第1トリオも、やはり6度音程をなめらかに上行、そして下行して始まる。

なお、終楽章にいうドイツ語の「フモア」は、「対照的な気分の並存」くらいの意味。「ユーモア」とも違う、もとはドイツ・ロマン主義文学の概念である。

■第2部■

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ短調 Op.105

情熱的な表情で／アレグレット／生き生きと

「なぜ君はヴァイオリンとピアノのために何も書かない？ まともな新作がこんなに不足しているというのに。君以上によくできそうな者を、僕は知らないんだがなあ」。1850年のはじめ、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスター、フェルディナント・ダーヴィトは、シューマンに宛ててそう書いた。シューマンの室内楽への取り組みは体系的で、弦楽四重奏曲を書いたあとは、ピアノ五重奏、同四重奏、同三重奏と、段々に編成サイズを絞っている。そこへ来て、この二重奏曲への誘いである。デュッセルドルフに移ると、翌年1851年の9月に、本作を一気に仕上げた。

第1楽章。うたかたのように消えては浮上するメランコリックな主題は、9小節から成る。4小節＋4小節の古典的なフォルムを採らない典型的シューマネスク。副次主題は明るいへ長調だが、主要主題と融け合っているのが不思議。第2楽章はロンド形式。第3楽章の最後で、ふと、第1楽章の主題が再帰する。

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 ニ短調 Op.121

きわめて遅くー生き生きと／きわめて生き生きと／ひそやかに、簡素に／動きをもって

1851年の秋、ピアノ三重奏曲第3番の創作を挟み、ヴァイオリン・ソナタ第1番に続けて書かれた。シューマン自身「大ソナタ」と命名したこちらは4楽章構成。音の「面影」や「身ぶり」の関連性(第1部Op.80を参照)でいうと、ここではJ. S. バッハという外部との関連が見えてくる。

第3楽章の歌うような主題は、スケルツォふうの第2楽章の終わりに予示されているが、これはバッハ「主よ、深き淵よりわれ汝を呼ぶ」のコーラル旋律。また、序奏付き第1楽章の開始部は、どこか「無伴奏パルティータニ短調」の終楽章「シャコンヌ」の冒頭を思わせよう。その上声部レ・ラ・ファ・レ(d-a-f-d)は、「音楽の捧げもの」からの引用とみなすこともできるし、また本作の被献呈者、ダーヴィト(David)の名を織り込んだものとも取れる(vはfの読み替え)。終生バッハに傾倒したシューマンだが、「シャコンヌ」の蘇演は、この11年前の1840年に、ダーヴィトの演奏(メンデルスゾーンのピアノ伴奏付き!)で聴いたのだった。

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 イ短調 WoO 2

きわめて遅くー生き生きと／間奏曲：動きをもって、ただし速すぎず／スケルツォ：生き生きと／フィナーレ：決然と、きわめて生き生きとしたテンポで

1853年10月1日、デュッセルドルフ。弱冠20歳のブラームスがシューマンを自宅に訪ね、その音楽でもって、43歳の大先輩を驚嘆させた。実はこの出会い、ヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒムが仲介したもので、ここに作曲家のアルベルト・デイトリヒを加えると、あの「F. A. E. ソナタ」の立役者がそろそろ。ヨアヒムを喜ばせようと、第1楽章をデイトリヒが、第2楽章と第4楽章をシューマンが、第3楽章をブラームスが書いたサプライズ作品だ。題名は、ヨアヒムの座右の銘「束縛されず、ただし独り frei, aber einsam」から採った。その直後、シューマンは独自の第1楽章と第3楽章を創作、これに既存の2楽

章を組み合わせたものが、彼の第3ソナタである。多くの主題の輪郭が、ファ・ラ・ミ(f-a-e)に由来している点、「F. A. E. ソナタ」より徹底している。

シューマンは翌年の2月にライン川に飛び込み、以後、1856年に46歳で亡くなるまで精神療養所で暮らすことになる。本作が出版されたのは、没後100年が経ってからのことだった。

■第3部■

弦楽四重奏曲 第1番 イ短調 Op.41-1

序奏: アンダンテ・エスプレッシーヴォーアレグロ / スケルツォ: プレスト / アダージョ / プレスト

シューマンの室内楽熱がさいしょに本格化した時を、1838年前後としよう。ライブツィヒにいて、フェルディナント・ダーヴィト(第2部・Op.105の項参照)の活躍を目の当たりにしたのが大きかった。彼が主催する演奏会やサークルを通して、古今の弦楽四重奏曲をじっくりと研究できたのだ。

極北に位置するのは、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作。それに匹敵する同時代人はメンデルスゾーンのみ、というのがシューマンの評価で、彼の室内楽曲第1号、弦楽四重奏曲Op.41の3曲は、そのメンデルスゾーンに献じられた。これが1842年のこと。「室内楽の年」の始まりである。

3曲セットで一つの作品番号とするあたり、また各曲とも4楽章構成で、冒頭楽章をソナタ形式とし提示部を反復するあたり、古典派の伝統に連なろうとする意思がみて取れよう。本作第1番では、ベートーヴェン第九交響曲のアダージョ楽章によく似た旋律も聴かれる(第3楽章・主要主題)。

弦楽四重奏曲 第2番 ヘ長調 Op.41-2

アレグロ・ヴィヴァーチェ / アンダンテ: 変奏曲のように / スケルツォ: プレスト / アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

本作の冒頭には、当初、第1番から滑らかに繋げるべく、短い序奏が付いていた。結局それは削られたわけだが、こうした改訂の多くは、メンデルスゾーンの助言に従った結果だという。本作の第1楽章はヘ長調。第1番の第1楽章も、序奏こそイ短調だが主部はヘ長調であり、ツイクルス性は明白、ということか。ちなみに、シューマンはメンデルスゾーンより1才若いだけだが、この天才を無二の畏友として心から敬愛した。

第2楽章は、「変奏曲のように」というだけあって、厳密な変奏曲ではない。古典派「らしさ」を装うあたり、優れてロマン主義的である。第4楽章には、何度も、しかしほとんど気づかれないほど素早く、ベートーヴェンの歌曲集「遥かなる恋人に寄す」の第6曲「受け取っておくれ、この歌どもを」の旋律が織り込まれる。クララへの密かな呼びかけとして、ピアノ曲「幻想曲 ヘ長調」(1836-38年)にも、交響曲第2番(1841年)にも引用されていたものだ。

弦楽四重奏曲 第3番 イ長調 Op.41-3

アンダンテ・エスプレッシーヴォーアレグロ・モルト・モデラート / アッサイ・アジタート / アダージョ・モルト / フィナーレ: アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

シューマンは、ダーヴィトらとの研究をとおして、同時代の弦楽四重奏曲に次のような要求を突きつけるに至った。「一言でいえば、詩的な深みと新しさを、部分においても全体においても求めたいということだ。」

「詩的」といって、何が念頭にあるのか? 一つには、音楽を通して広がってゆく連想、繋がり、関連性が考えられよう。第1部の項で触れた、楽章や作品をまたいで認められる「面影」や「身ぶり」、また引用も、これに関わってこよう。

とすれば、3曲で1セットというツイクルス性も、「詩的な深みと新しさ」の証しか。本作、第3番の第2楽章は、「変奏曲のように」とされた第2番の同楽章と似て非なるもので、「変奏曲」である。つまり両者は、少しズレて(広がって)、関連している。しかもこの変奏曲、主題がようやく曲の中ほどになって現れるという変わり種。いわば結果(変奏)から始めて原因(主

題)に遡るわけで、これもある種「詩的」なありかたと言ってよさそうだ。

■第4部■

幻想小曲集 イ短調 Op.88

ロマンツェ: 速くせず、心のこもった表情で / フモレスケ: 生き生きと / デュエット: 遅く、かつ表情をもって / フィナーレ: 行進曲のテンポで

このマラソンコンサートは、伝統的な重奏形式・楽章構成によった作品を扱っているが、シューマンには、ホルンとピアノによる「アダージョとアレグロ Op.70」、オーボエとピアノによる「3つのロマンス Op.94」といった、独自の室内楽曲群もある。本作Op.88は、本日唯一、そこから採った作品である。

編成こそピアノ三重奏曲と同じであり、実際、1842年当初はそう称されるはずだったのだが、4つの小品の集成という性格上見送られ、1850年になってから現在の題で出版された。シューマンが好んで用いる名称「幻想小曲集」は、E. T. A. ホフマンの小説『カロ風の幻想小品集』にちなんだもので、「個々の部分がそれ自体で独立していながら全体にも関与している」点がポイント。なるほど、4曲は調性だけみても、イ短調、ヘ長調、ニ短調、イ短調 / イ長調と、近親関係にある。それでいて各曲は独立性が高く、第3曲など「デュエット」の題のとおり、まるで声楽曲のようだ。

ピアノ四重奏曲 変ホ長調 Op.47

ソステヌート・アッサイアーアレグロ・マ・ノン・トロppo / スケルツォ: モルト・ヴィヴァーチェ / アンダンテ・カンタービレ / フィナーレ: ヴィヴァーチェ

1842年がシューマンの「室内楽の年」と呼ばれるのは、彼の室内楽曲第1号である弦楽四重奏曲が夏に書かれたのち、この第4部で演奏される3曲が、立て続けに書かれたから。ピアノ五重奏曲、同四重奏曲、同三重奏曲と実質みなせる「幻想小曲集」の順で。編成を段々に小さくしているが、各楽器のソロイスティックな負担は逆に増してゆくわけで、作曲家の慎重さがうかがえよう。

ピアノ四重奏曲は、ピアノの比重が大きかった直前の五重奏曲に比べると、この楽器と弦楽(ヴァイオリン+ヴィオラ+チェロ)を、より対等なかたちで扱っている。冒頭でゆっくりと呈されるソ・ファ・ソ・ラが、主要主題の基となるばかりでなく、さまざまな形で神出鬼没、本楽章のネジを締めてゆく。第2楽章は2つのトリオを持つスケルツォ。和音の連続だけで成る第2トリオは、どこか前衛的だ。オペラ・アリアが変奏されてゆくような第3楽章を経て、フーガ風の終楽章へ。

ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44

アレグロ・プリランテ / 行進曲風に: ウン・ボーコ・ラルガメンテ / スケルツォ: モルト・ヴィヴァーチェ / アレグロ・マ・ノン・トロppo

冒頭の澗刺としたジグザグ音型が、作曲家18歳の時の試作、ピアノ四重奏曲ハ短調(1828年)の冒頭部をほうふつとさせるが、本作の「部分と全体」の関連は、若書きにはなかった密度を示している。

第2楽章から展望するのがよいだろう。全体はA-B-A'-C-A''-B'-A'''の構造。聴くとヘ短調の激しいC部は異分子のようでもあるが、これが全体との繋がりを感じさせるのは、旋律の核となる音が、葬送行進のA部のそれ(ド・ファ・ラト・ソ・ド)と一致しているからだ。また、その末尾の下行するソ→ドの音程は、各楽章のいたるところに現れている。

第4楽章では、第1楽章のジグザグ音型と本楽章の主要主題による二重フーガが形成され、そのあとに第2楽章から抒情的なB部が、ふと挿入される。こうして全体がツイクルス状に統合されてゆくのだ。

なお、ピアノと弦楽四重奏との組み合わせは、当時、自明のものではなく、「ピアノ五重奏曲」がその後普及したのは、シューマンのおかげと言える。

Profile

Akiko Suwanai



©Kiyotaka Saito

諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON2024 芸術監督／ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィル、N響など国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリザベート王妃国際コンクール、2018年ロン＝ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより15枚のCDをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学で学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグアルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin / Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2024)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label. Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesù violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.

Profiles

ベンジャミン・シュミット (ヴァイオリン)

1992年カール・フレッシュ・コンクール優勝。小澤征爾指揮／ウィーン・フィルをはじめ、ロンドン・フィル、サンクトペテルブルグ・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管などの著名オーケストラと共演。60枚以上のCDをリリースし、ドイツ・レコード賞ほか多数受賞。ジャズ即興でも高い評価を得ている。ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授。ミュンヘンをはじめとする国際コンクールの審査員を務める。

Benjamin Schmid (Violin)

Winner of the Carl Flesch Competition in 1992. Benjamin Schmid has performed with renowned orchestras such as the Vienna Philharmonic Orchestra conducted by Seiji Ozawa, the London Philharmonic Orchestra, Saint Petersburg Philharmonic Orchestra, and Concertgebouw Orchestra. He has released over 60 CDs and received numerous awards including the German Record Critics' Award. He is also highly acclaimed for his jazz improvisations. Schmid is a professor at the Mozarteum University Salzburg. He has served as a jury member for international competitions including the ARD International Music Competition Munich.



Benjamin Schmid



Ayana Tsuji

辻 彩奈 (ヴァイオリン)

岐阜県出身。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位。2018年「第28回出光音楽賞」、2023年「第24回ホテルオークラ音楽賞」を受賞。2020年、自らが権代敦彦に委嘱した「Post Festum」を世界初演。使用楽器は、NPO法人イエローエンジェルより貸与のJoannes Baptista Guadagnini 1748。国際音楽祭NIPPON第1回、第2回マスタークラス参加。

Ayana Tsuji (Violin)

Born in Gifu Prefecture. Ayana Tsuji won first prize in the Montreal International Music Competition in 2016, the 28th Idemitsu Music Award in 2018, and the 24th Hotel Okura Music Award in 2023. In 2020, she performed the world premiere of "Post Festum," a composition she commissioned from Atsuhiko Gondai. Ayana Tsuji plays a Joannes Baptista Guadagnini 1748 violin, on loan from the NPO Yellow Angel. She participated in Master Classes of the 1st and 2nd International Music Festival NIPPON.



Lina Nakano

中野 りな (ヴァイオリン)

2021年日本音楽コンクール、2022年仙台国際音楽コンクールともに優勝を飾って一躍注目を集め、ソリストとして活動を開始。現在、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース及び、ウィーン市立芸術大学に在学。2023年度ロームミュージックファンデーション及び、江崎スカラシップ奨学生。使用楽器：1716年製アントニオ・ストラディヴァリウス(財団法人ITOHより貸与)。国際音楽祭NIPPON第4-6回マスタークラス参加。

Lina Nakano (Violin)

Lina Nakano quickly gained attention by winning consecutive first prizes at the 2021 Japan Music Competition and the 2022 Sendai International Music Competition. It led to the launch of her career as a soloist. She is currently enrolled in the Soloist Diploma Course at Toho Gakuen School of Music and is a 2023 ROHM Music Foundation scholarship student. She performs on a generously loaned 1716 Stradivarius violin provided by the ITOH Foundation. She participated in Master Classes of the 4th-6th International Music Festival NIPPON.



Kyoko
Yonemoto

米元 響子 (ヴァイオリン)

1997年パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール(イタリア)において史上最年少13歳で入賞後、モスクワ・パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール優勝など数々の賞を受賞。これまで国内外の主要オーケストラと多数共演を重ねるほか、室内楽の分野でも高い評価を受けている。現在、マーストリヒト音楽院教授。CD「イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」は文化庁芸術祭優秀賞受賞。使用楽器は1727年製のストラディヴァリウス(サントリー芸術財団より貸与)。国際音楽祭NIPPON2020、2022参加。

Kyoko Yonemoto (Violin)

At the age of 13, Kyoko Yonemoto became the youngest-ever prizewinner at the 1997 Paganini Competition in Italy. She later received numerous prizes including first prize in the Paganini Moscow International Competition. In addition to appearing with major orchestras inside and outside Japan, Yonemoto has earned high praise as a chamber musician. She is currently a professor at the Maastricht Conservatorium in the Netherlands. Her CD Ysaÿe: Complete Sonatas for Violin received the Excellence Award a recipient of the Agency for Cultural Affairs. Kyoko Yonemoto plays a 1727 Stradivarius violin, on loan from the Suntory Foundation for Arts. She participated in the International Music Festival NIPPON2020 and 2022.



Ryo
Sasaki

佐々木 亮 (ヴィオラ)

NHK交響楽団首席奏者。東京藝術大学及びジュリアード音楽院卒業。現音室内楽コンクール第1位。アスペン音楽祭、マルボロ音楽祭に参加。内田光子、ヒラリー・ハーン、リン・ハレル等と共演。桐朋学園大、東京藝大、東京音大、洗足学園音大にて後進の指導にもあたっている。

Ryo Sasaki (Viola)

Principal violist of the NHK Symphony Orchestra. Ryo Sasaki holds degrees from Tokyo University of the Arts and The Juilliard School. He won 1st prize in the Contemporary Chamber Music Competition in Japan. Sasaki performed in the Aspen and Marlboro music festivals. He has collaborated with such renowned musicians as Mitsuko Uchida, Hilary Hahn, and Lynn Harrell. Currently he is teaching the next generation of musicians at Toho Gakuen School of Music, Tokyo University of the Arts, Tokyo College of Music, and Senzoku Gakuen College of Music.



Yasuhiro
Suzuki

鈴木 康浩 (ヴィオラ)

読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。第7回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。サイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍。国際音楽祭NIPPON2020、2022参加。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival. He participated in the International Music Festival NIPPON2020 and 2022.



Jens-Peter
Maintz

イエンス＝ペーター・マインツ (チェロ)

1994年ミュンヘン国際音楽コンクールにおいてチェロ部門17年ぶりの優勝者となる。2006年よりクラウドディオ・アバドの招聘をきっかけにルツェルン祝祭管弦楽団ソロ・チェリストを務めている。これまでにアシュケナージ、プロムシュテットらと共演。2004年よりベルリン芸術大学教授。

Jens-Peter Maintz (Cello)

In 1994, he won first prize at the ARD International Music Competition, which had previously not been awarded to a cellist for 17 years till then. He has been principal cellist of the Lucerne Festival Orchestra since 2006, at the invitation of Claudio Abbado. He has appeared as a soloist under the baton of conductors such as Vladimir Ashkenazy, Herbert Blomstedt. Since 2004 he has been professor at Berlin University of the Arts.



Haruma
Sato

佐藤 晴真 (チェロ)

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝。2018年にはルトスワフスキ国際チェロコンクールにおいて第1位および特別賞など多数の受賞歴を誇る。バイエルン放送響はじめ国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。2020年のデビューアルバムより、ドイツ・グラモフォンから3枚のCDをリリース。

Haruma Sato (Cello)

In 2019, he became the first Japanese to win the first prize (violoncello) at the ARD International Music Competition Munich, and in 2018, he won the first prize and a special prize at the Witold Lutoslawski International Cello Competition. He has performed with Bavarian Radio Symphony Orchestra and other major orchestras in Japan and abroad, and has received favorable reviews for his recitals and chamber music. Since his debut album in 2020, he has released 3 CDs on Deutsche Grammophon.



José
Gallardo

ホセ・ガヤルド (ピアノ)

アルゼンチン出身。マインツ大学音楽学部卒業。国内外で数多くの賞に輝き、ロックンハウス、ヴェルビエ、ルツェルンなど多くの音楽祭に招かれる。ギドン・クレーメル、アンドレアス・オッテンザマー等と共演。EMI、ヘンスラー、ナクソス等からCDをリリース。SWRをはじめとするテレビ、ラジオ番組のための録音でも活躍している。2008年からアウグスブルク大学のレオポルト・モーツァルト・センターで後進の指導にあたっている。

José Gallardo (Piano)

Born in Argentina, José Gallardo graduated from the Mainz School of Music. He has received numerous national and international awards, and has been invited to perform in many music festivals including Lockenhaus, Verbier and Lucerne. Gallardo has performed with musicians such as Gidon Kremer and Andreas Ottensamer, and released CDs on labels including EMI, Hänssler and Naxos. He has also recorded for TV and radio productions by broadcasters such as SWR. Since 2008, José Gallardo has been teaching at the Leopold Mozart Center at the University of Augsburg.

Profiles



Tomoki Sakata

阪田 知樹 (ピアノ)

2016年フランチ・リスト国際ピアノコンクール第1位、2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位ほか多数受賞。チェコ国立響、ハンガリー国立フィル、ベルギー国立管、N響との共演や世界各地でのリサイタル等を重ね、国際音楽祭への出演も多い。国際音楽祭NIPPON2020、2022参加。

Tomoki Sakata (Piano)

Tomoki Sakata has won numerous awards including first prize in the Franz Liszt International Piano Competition in 2016 and fourth prize in the Queen Elisabeth Competition in 2021. He has performed with such renowned orchestras as the Czech National Symphony, Hungarian National Philharmonic, Belgian National Orchestra, and NHK Symphony. Sakata has also given recitals and other performances around the world and has appeared in many international music festivals. He participated in the International Music Festival NIPPON2020 and 2022.



Kotaro Fukuma

福間 洸太郎 (ピアノ)

20歳でクレーヴランド国際コンクール日本人初の優勝およびシヨパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、サントリーホールなどでのリサイタルのほか、モスクワ・フィル、N響など著名オーケストラと多数共演。CDは、19枚をリリース。2024年、日本デビュー20周年を迎えた。

Kotaro Fukuma (Piano)

At the age of 20, Kotaro won both First Prize and the Chopin Prize at the 15th Cleveland International Piano Competition. He has given recitals at Carnegie Hall, Suntory Hall, and other venues, and has performed with the Moscow Philharmonic, NHK Symphony Orchestra, and many other renowned orchestras. He has released 19 commercial CDs.

Profiles

【葵トリオ】 秋元 孝介(ピアノ) / 小川 響子(ヴァイオリン) / 伊東 裕(チェロ)

第67回ミュンヘン国際音楽コンクール優勝。上演機会の少ない作品や邦人作曲家の楽曲も取り上げる活動が注目を集めている。日欧やアジアで出演し、オーケストラとの共演も重ねる。これまでに4枚の録音をリリース。国際音楽祭NIPPON2022参加。

Aoi Trio Kosuke Akimoto, Piano / Kyoko Ogawa, Violin / Yu Ito, Cello

Aoi Trio won first prize in the 67th ARD International Music Competition Munich. Their performances of rarely presented works and music by Japanese composers have attracted a great deal of attention. The trio has appeared in recitals in Japan and Europe, and has also performed with orchestras. Aoi Trio has released four recordings to date. Aoi Trio participated in the International Music Festival NIPPON in 2022.



Kosuke Akimoto

秋元 孝介 (ピアノ)

東京藝術大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。第2回ロザリオ・マルシアーノ国際ピアノコンクール第2位、第10回パデレフスキ国際ピアノコンクール特別賞などを受賞。各地でソロリサイタルを開くほか、オーケストラとの共演や室内楽公演、アウトリーチ活動も積極的に行っている。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。現在は東京藝術大学大学院博士課程に在籍しながら日本とドイツで演奏活動を行っている。

Kosuke Akimoto (Piano)

Kosuke Akimoto is a member of Aoi Trio, which won the first prize at the 67th ARD International Music Competition in 2018. He also won the Special Prize in the 10th Paderewski International Piano Competition. In addition to giving solo recitals, he performs frequently with orchestras and in chamber music concerts. After graduating from Tokyo University of the Arts, Kosuke Akimoto received a master's degree from that university's Graduate School of Music. Akimoto is a alumni of the Suntory Hall Chamber Music Academy.



Kyoko Ogawa

小川 響子 (ヴァイオリン)

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。ベルリン・フィルハーモニー・カラヤンアカデミーを修了。第10回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞、リヨン国際室内楽コンクール二重奏部門第3位を受賞。ツェルマット音楽祭や東京・春・音楽祭等、国内外の音楽祭に参加。サントリーホール室内楽アカデミー第3期、第4期フェロー。室内楽奏者、ゲストコンサートマスター等、国内外で活動している。2024年4月より名古屋フィルコンサートマスターに就任。

Kyoko Ogawa (Violin)

Kyoko Ogawa graduated from Tokyo University of the Arts. She won 1st prize and audience award at the 10th Tokyo Music Competition. Her past co-artists as soloist includes Seiji Ozawa and Anne-Sophie Mutter. She was honored to join Karajan Academy of Berlin Philharmonic till April 2021.



Yu Ito

伊東 裕 (チェロ)

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。第77回日本音楽コンクールチェロ部門第1位、徳永賞を受賞。関西フィル、日本センチュリー響、神戸市室内合奏団、などと協演。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、小澤征爾音楽塾オーケストラ、武生国際音楽祭、北九州国際音楽祭、宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭などに参加。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京都交響楽団首席奏者。

Yu Ito (Cello)

Yu Ito learned at Tokyo University of the Arts where he graduated as the top student under Nobuko Yamazaki and Kenzi Nakagi. After graduated he studied with Enrico Bronzi at Mozarteum University Salzburg. He is currently studying at the University of Music and Performing Arts Munich. As a soloist, Yu has collaborated with Tokyo Philharmonic Orchestra, Kansai Philharmonic Orchestra, Japan Century Symphony Orchestra. He is a member of Kioi Hall Chamber Orchestra Tokyo.

Profiles

【カルテット・アマービレ】

篠原 悠那(ヴァイオリン)/北田 千尋(ヴァイオリン)/中 恵菜(ヴィオラ)/笹沼 樹(チェロ)

2016年難関ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位、あわせて特別賞受賞。2019年ヤングコンサートアーティスト国際オーディション第1位。磯村和英、山崎伸子に師事。マルタ・アルゲリッチ、ダン・タイ・ソン、ポール・メイエらと共に演奏。

Quartet Amabile

Yuna Shinohara, Violin / Chihiro Kitada, Violin / Meguna Naka, Viola / Tatsuki Sasanuma, Cello

Quartet Amabile won third prize, as well as the special prize for interpretation, in the string quartet division of the prestigious ARD International Music Competition Munich in 2016. They also won first prize in the 2019 Young Concert Artists International Audition in New York. The Quartet has studied with Kazuhide Isomura and Nobuko Yamazaki. They have performed with such renowned musicians as Martha Argerich, Dang Thai Son and Paul Meyer.



Yuna Shinohara

篠原 悠那 (ヴァイオリン)

2023年岩城宏之音楽賞受賞。第80回日本音楽コンクール第2位。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース、同大学院修了。2024年1月より日本センチュリー交響楽団客員コンサートマスターに就任。使用楽器は1832年製G.F.プレッセンダex"カール・フレッシュ"(宗次コレクション)。

Yuna Shinohara (Violin)

Yuna Shinohara was awarded the Hiroyuki Iwaki Music Award in 2023. She won 2nd Prize at the 80th Japan Music Competition. She completed the Soloist Diploma Course and the master's degree course at Toho Gakuen School of Music. She has been appointed Guest concertmaster of the Japan Century Symphony Orchestra in January 2024. She plays a G.F. Pressenda ex & "Carl Flesch" made in 1832 (Munetsugu Collection).



Chihiro Kitada

北田 千尋 (ヴァイオリン)

第7回仙台国際音楽コンクール第4位。第1回ブラチスラヴァ舞台芸術アカデミー国際音楽コンクール第2位。日本フィル、仙台フィル、スロヴァキア放送響等と共に演奏。桐朋学園大学、同大学院修了後、ブリュッセル王立音楽院にて研鑽を積む。

Chihiro Kitada (Violin)

Chihiro Kitada won 4th Prize in the 7th Sendai International Music Competition and 2nd Prize in the 1st International Music Competition of Bratislava Academy of Performing Arts. She has appeared with orchestras in Japan and abroad, including the Japan Philharmonic Orchestra, Sendai Philharmonic Orchestra, and Slovak Radio Symphony Orchestra. After graduating from the Toho Gakuen School of Music and that school's master's degree program, she studied at the Royal Conservatory of Brussels.



Meguna Naka

中 恵菜 (ヴィオラ)

4歳よりヴァイオリンを始め、21歳でヴィオラに転向。桐朋学園大学音楽学部を卒業後、ハンズ・アイスラー音楽大学ベルリンマスター課程修了。新日本フィルハーモニー交響楽団首席ヴィオラ奏者。使用楽器は宗次コレクションより特別に貸与されたMontagnana。

Meguna Naka (Viola)

Meguna Naka started playing violin at the age of 4 and switched to viola at the age of 21. After graduating from the music department of Toho Gakuen School of Music, she completed the master's degree program at Hanns Eisler Music University in Berlin. She is principal violist in the New Japan Philharmonic. She plays a 1722 Domenico Montagnana viola, on special loan from the Munetsugu Collection.



Tatsuki Sasanuma

笹沼 樹 (チェロ)

ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクールで優勝。桐朋学園大学、学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科卒業。桐朋学園大学大学院修了。パリエコールノルマル音楽院在籍中。2022年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。使用楽器は1771年製C.F.Landolfi(宗次コレクション)。

Tatsuki Sasanuma (Cello)

Tatsuki Sasanuma won the first prize in the Salzburg-Mozart International Chamber Music Competition. He graduated from the Soloist Diploma Course at Toho Gakuen School of Music and from the Department of German Language and Culture in the Faculty of Letters at Gakushuin University. He also completed a graduate course at Toho Gakuen Graduate School. He is currently enrolled as a special student at the Ecole Normale de Musique de Paris. He was awarded the 20th Hideo Saito Memorial Fund Prize in 2022. He studied under Tsuyoshi Tsutsumi and Henri Demarquette. His instrument is a 1771 C.F. Landolfi (Munetsugu Collection).



国際音楽祭 NIPPON 2024

芸術監督: 諏訪内晶子



【東京開催】Tokyo

AKIKO SUWANAI Plays モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 全曲演奏会

Mozart The Complete Violin Concertos

1月11日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
January 11 Thu. 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

1月12日(金)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
January 12 Fri. 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

AKIKO Plays CLASSIC & MODERN with Friends ~ Vienna 1800 & 1900

CLASSIC ~ Vienna 1800 ~

2月19日(月)19:00開演 紀尾井ホール
February 19 Mon. 19:00 Kioi Hall

MODERN ~ Vienna 1900 ~

2月21日(水)19:00開演 紀尾井ホール
February 21 Wed. 19:00 Kioi Hall

シューマン室内楽マラソンコンサート

R.Schumann Chamber Music Marathon Concert

2月23日(金・祝) 東京オペラシティ コンサートホール
February 23 Fri. Tokyo Opera City Concert Hall

【第1部】11:00開演 【第2部】14:00開演 【第3部】16:00開演 【第4部】19:00開演



【愛知開催】Aichi

AKIKO SUWANAI Plays モーツァルト ヴァイオリン協奏曲

Mozart Violin Concertos

1月13日(土)18:00開演 三井住友海上しらかわホール
January 13 Sat. 18:00 MS&AD SHIRAKAWA HALL

ミュージアム・コンサート

Museum concert

2月18日(日)19:00開演 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー
February 18 Sun. 19:00 Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby



【岩手開催】Iwate

~諏訪内晶子&フレンズ~ コンサート in 大船渡

AKIKO SUWANAI & Friends Concert in Ofunato

2月17日(土)14:00開演 大船渡市民文化会館 リアスホール
February 17 Sat. 14:00 Rias Hall (Ofunato City Culture Hall)



【神奈川開催】Kanagawa

公開マスタークラス <チェロ部門>

Open Master Classes <Cello Division>

2月11日(日・祝) フィリアホール リハーサル室(横浜市青葉区民文化センター)
February 11 Sun. PHILIA HALL/Rehearsal Room (Aoba Civic Cultural Center)

2月12日(月・休) 横浜みなとみらいホール 小ホール
February 12 Mon. Yokohama Minatomirai Hall Small Hall

公開マスタークラス <ヴァイオリン部門>

Open Master Classes <Violin Division>

2月26日(月)・27日(火) フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)
February 26 Mon. and 27 Tue. PHILIA HALL (Aoba Civic Cultural Center)



主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社/大船渡市(2/17)

共催: [愛知]中日新聞社/CBCテレビ [岩手]岩手日報社/IBC岩手放送

後援: ドイツ連邦共和国大使館/オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム/在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本
東海新報社(2/17)

特別協賛:

協力: ユニバーサル ミュージック/トヨタ産業技術記念館(2/18)

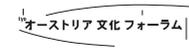
[神奈川]フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)/横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

企画制作: ジャパン・アーツ

プログラム監修: 沼野雄司 船木篤也

マネジメント: [東京]ジャパン・アーツ [愛知]クラシック名古屋

制作協力: [岩手]岩手県文化振興事業団



KAWAI

予感。

小さなホールでのステージに
緊張はしたけれど、温かい拍手と
スポットライトを浴び、心が微笑んだ。
そんな感動から一夜明けた朝。
これからまた新しい夢が訪れることを
予感させてくれるピアノ。
それが私の「Shigeru Kawai」。




SHIGERU KAWAI
GRAND PIANO



SK-7

奏者の感性を余すことなく表現する
至高のグランドピアノ。
Shigeru Kawai。

SK-7	標準価格(税込)	8,690,000円	奥行229cm
SK-6	標準価格(税込)	7,150,000円	奥行214cm
SK-5	標準価格(税込)	5,280,000円	奥行200cm
SK-3	標準価格(税込)	4,235,000円	奥行188cm
SK-2	標準価格(税込)	3,630,000円	奥行180cm



株式会社河合楽器製作所

<https://www.shigerukawai.jp>

CDデビューから25周年

諏訪内晶子が遂にバッハの金字塔、無伴奏作品を録音!

コロナ下で真摯に向き合い続けた新たな銘器、
ガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」を演奏しての新録音。

DECCA

好評 発売中

J.S.バッハ： 無伴奏ヴァイオリン・ソナタと パルティータ(全曲)

諏訪内晶子

ヨハン・セバスティアン・バッハ：
無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ(全曲)
BWV1001-1006

- Disc 1**
1. ソナタ 第1番 短調 BWV1001
 2. パルティータ 第1番 短調 BWV1002
 3. ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
- Disc 2**
1. パルティータ 第2番 二短調 BWV1004
 2. ソナタ 第3番 八長調 BWV1005
 3. パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

諏訪内晶子 (ヴァイオリン)

録音：2021年6月7日~11日、7月10日~13日 バーレン(オランダ)、ホワイト・チャーチ

- 初回限定盤はSA-CDハイブリッドで、阿川佐和子氏によるライナーノーツ入り。通常盤とは絵柄違いのスリーブケース付。
- 使用楽器は1732年製のガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。



【通常盤】
UHQCD
2枚組
UCCD-45005/6
定価 ¥ 4,400
(本体 ¥ 4,000 税率10%)



【初回限定盤】
SA-CD
ハイブリッド2枚組
UCGD-9086/7
定価 ¥ 5,800
(本体 ¥ 5,273 税率10%)

発売：ユニバーサル ミュージック

UNIVERSAL
MUSIC GROUP

22世紀を

移動の真ん中に

AISIN

動かそう

www.aisin.com/jp 株式会社 アイシン

トヨタ自動車株式会社



モビリティを通じて、もっと住みやすい社会に。

全ての人が、楽しく自由に移動できる世界を、想像してみませんか。

もうすぐそこに、そんな社会が近づいて来ています。

私たちは、誰もがそれぞれの可能性にチャレンジできる社会づくりを目指しています。

TOYOTA

2050年、この星のどこかで。
君たちは笑っていますか。



カーボンニュートラルという言葉がまだなかった数十年前から、
グループ全社をあげて、脱炭素に取り組んでいます。

未来の子供たちに、よりよい地球環境を。
とどける商社、豊田通商。

Be the **Right ONE**
豊田通商

組み立てると未来ができる。



創業から続く繊維機械事業を原点に、
自動車や産業車両、物流ソリューションへと、
人々の暮らしを豊かにする事業に挑戦してきました。
これからも新たな領域に挑み、
温かい社会づくりに貢献する企業であり続けます。

豊田自動織機

www.toyota-shokki.co.jp